Ⅱ　研究に関する取組

教員養成大学の強みを活かし、
教員養成機能の高度化と地域の発展に貢献できる研究の展開

■教育諸科学をはじめとするあらゆる研究分野における理論的研究と実践的研究を融合的に深める。
■より高度化し複雑化する現代の諸課題に対応し、先進的かつ学際的研究を推進するとともに、
その成果を地域に還元する。

理論と実践の架け橋をつくる 教員研修プログラム

高校生 | 本学学生 | 地域の方々 | **学校教員** | 民間企業 | 自治体 | **大学関係者**

【北海道教育大学】 研究者教員研修プログラム

令和６年４月までに教員養成課程（札幌校・旭川校・釧路校）に採用された研究者教員を対象として、附属学校等を活用した「新任大学教員研修プログラム」を実施した。

【取組の目的】

本プログラムでは、本学附属学校及び道内の公立学校における授業観察、研修及び実践研究に携わることを通じて、自己の専門分野と今日的な教育課題との接点を明らかにし、今後の教育と研究につなげさせることで、教員養成大学の教員として必要とされる実践性を向上させている。

【特色・ポイント】

これによって、本学のすべての教員が、学校現場での指導、研修及び実践研究に関する経験を有することとなる。
（在職中の研究者教員については、本プログラムあるいは令和３年度までに実施した「教員現職研修プログラム」を受講済み）

【令和６年度の取組内容・実績】

各教員が附属学校等にて学生指導を伴う研修や授業観察等を実施し、令和６年度においては、札幌校７名、旭川校４名、釧路校４名の計１５名が研修を修了した。

【今後の展望】

より一層、学校教育に関する臨床的研究の「種」を見つけ、「人脈」を築くことができるよう、研修内容の見直しを行い、新たな研修モデルを作成した。令和７年度より本モデルの実施を予定。

プログラムの目的

- 教育研究の現状理解
- 教育の現状や課題の理解

プログラムの内容

授業実践に関わる課題の把握・解決

- 研究大会・公開研究会への参加
- 授業観察、意見交換
- 教材作成への参画、協働実践研究
- 授業実践・出前授業

生徒指導に関わる課題の把握・解決

- 学校行事等各種学習活動の観察
- 各種研究講座への参加

教員に求められる資質・能力の向上

授業力 / 省察力 / 教育的人間性 / 協働力 / 生徒指導力

プログラムの効果

- 実践的な研究の推進
- 学校現場を理解した授業の充実

関連のある第４期中期計画番号：

ビジョンの取組番号：

取組のURL：

【責任者・担当部署】
海老名理事
人事課

教育課題の解決に資する「臨床的研究」の推進

高校生 | 本学学生 | **地域の方々** | **学校教員** | 民間企業 | **自治体** | **大学関係者**

臨床的研究プロジェクト・学問領域実証研究プロジェクトの実施

教育委員会・附属学校との協議に基づく臨床的研究を推進する「臨床的研究プロジェクト」、「教員養成教育を構成する学問領域」における実証研究を強化する「学問領域実証研究プロジェクト」を立ち上げ、研究を推進している。

【取組の目的】

地域の教育課題を解決し、より良い社会の実現に寄与するため、基礎研究に基づく理論及び知見と学校現場等における実践との往還を基盤とした臨床的研究に組織的に取り組み、その成果を学校現場等へ還元し、地域の教育力向上につなげる。

【特色・ポイント】

臨床的研究は、教育現場の地域等の現代的課題やニーズに取り組み、新たな角度から課題解決への糸口を見つけようとする研究である。また、学問領域実証研究は、「省察」や「探究」などの新たな教育的課題を解決する研究である。これらにより、教員養成研究の専門性強化と高度化が期待される。

【令和６年度の取組内容・実績】

附属学校及び教育委員会と情報共有及び意見交換等を行うことにより、研究成果を学校現場等に還元する方法についてのアドバイスや学校現場の現状等についての情報提供があり、研究協力先等との連携が円滑に行われた。また、研究協力先等から肯定的な意見や感想、改善点等のアドバイスを受けたことにより、次年度以降の研究の発展に結び付けることができた。

【今後の展望】

令和7年度に教育委員会等の有識者からの中間評価を受け、中間評価を元にさらに研究を発展させ、得られた成果を多様な方法で教育界に還元する。令和9年度の最終評価では、教育現場での問題解決に貢献した等の肯定的評価を得る。

臨床的研究プロジェクト一覧
【教育委員会・附属学校との協議に基づく臨床的研究の推進事業】

	プロジェクト名	連携先	代表者
1	札幌市の特別支援教育における学習環境の構築と多様なニーズに応じた支援方法の開発	札幌市教育委員会	安井　友康（札幌校）
2	科学的データに基づく体育授業の分析と授業改善プログラムの開発	札幌市教育委員会	中島　寿宏（札幌校）
3	算数科・数学科教員の「授業力」を高める「授業改善」の具体的支援	北海道教育委員会	谷地元　直樹（旭川校）
4	特別支援教育コーディネーターの専門性向上に関する実践的検討	北海道教育委員会	片桐　正敏（旭川校）
5	国語教育におけるICT、主にデジタル教科書を活用した効果的な授業モデルの構築	附属学校	大橋　賢一（旭川校）
6	教育実習指導を通して学び続ける教師：管理職，教育実習生との相互作用から得られるものとは	北海道教育委員会	半澤　礼之（釧路校）
7	外国語（英語）教育におけるデジタル教科書の教育効果の検証	附属学校	石森　広美（函館校）
8	豊かな運動経験を実現する学校向け運動プログラムの開発とその効果の検証	北海道教育委員会	奥田　知靖（岩見沢校）

学問領域実証研究プロジェクト一覧
【「教員養成教育を構成する学問領域」における実証研究の強化事業】

	プロジェクト名	代表者
1	教員養成課程における省察する力の育成―学生が行う附属学校での観察実践―	幸坂　健太郎（札幌校）
2	省察を取り入れた学校現場の臨床的な研究についての基礎的な調査・研究	山中　謙司（旭川校）
3	「地域課題解決型探究」カリキュラムの開発及び教材化	杉本　任士（函館校（院））

北海道教育委員会との臨床的推進会議

関連のある第４期中期計画番号：７
ビジョンの取組番号：研究１－１、研究２－２
取組のURL：https://www.hokkyodai.ac.jp/research/kyosotekishikin/r-rinshoteki/index.html

【責任者・担当部署】
後藤（泰）理事
連携推進課

目次へ

国境を越えるへき地・小規模校の学び

へき地教育の国際社会貢献と台湾の大学との研究交流

近年、へき地・小規模校教育研究センターの研究・実践の成果にアラスカ・タイ・ラオス・中国からの期待が高まっている。また、台湾からは、本学に対して、強力な研究交流の期待が寄せられるなど、国際的な研究交流の重要性が高まる中、本学として研究成果等の展開・交流をこれまで以上に推進する。

【取組の目的】

日本のへき地教育研究は、間接指導やリーダー学習等の指導方法が確立されており、国際的な水準が高いと評価されている。

このことから、国家プロジェクトとしてへき地教育研究を推進している台湾をはじめとした各国に対し、研究成果の展開等を行い、へき地・複式・小規模校教育の充実と国際的な発展に寄与する。

【特色・ポイント】

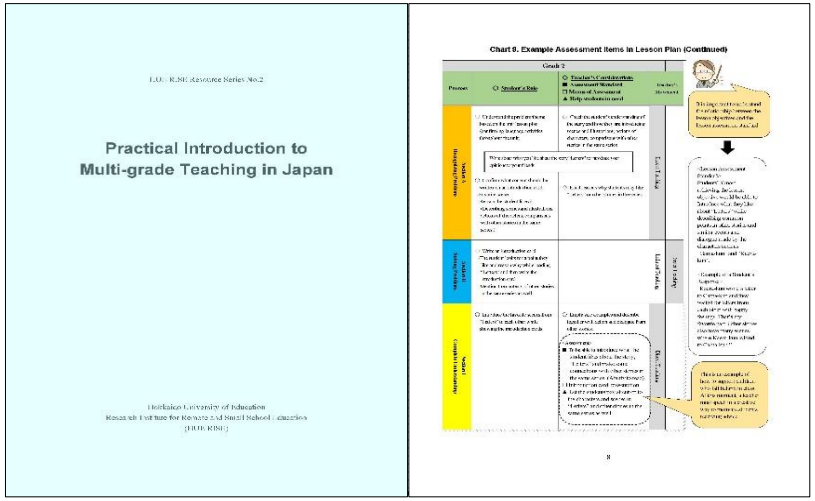
へき地・小規模校教育研究センターでは、これまでタイやラオス等の開発途上国の依頼に基づき、英語版の研究教材や指導技術を提供している。
更に、台湾のマルチグレード教育（異学年教育）に関する研究交流を発展させており、台日のへき地教育研究に貢献している。

【令和６年度の取組内容・実績】

台湾のマルチグレード教育を促進する大学間研究・実践ネットワーク組織からの招待を受け、令和7年3月に現地のへき地校訪問や研究集会に参加した。当組織とは令和３年度から継続した研究交流を続けている。また、現地の小学校でマルチグレード教育の実践事例の視察と実践研究交流を深めた。

【今後の展望】

少子高齢化が進む現代では、日本国内だけでなく海外でも小規模校の教育方法や地域への教員定着が課題となっている。へき地・小規模校教育研究センターでは、事例研究や実践プログラムの開発等を行い、へき地・複式・小規模校教育の充実と国際的な発展に寄与していく。



北海道教育大学「日本の複式学級における学習指導の手引き」英語版

令和7年3月の台湾の大学研究交流・学校訪問・研究集会への助言

関連のある第４期中期計画番号：

ビジョンの取組番号： 教育１－２ ， 研究４－１ ， 地域・社会貢献３－１

取組のURL：https://www.hokkyodai.ac.jp/files/00005800/00005859/20250619152430.pdf

【責任者・担当部署】
玉井副学長
連携推進課

「令和の日本型学校教育」を拓く へき地教育フォーラム

高校生 | 本学学生 | 地域の方々 | 学校教員 | 民間企業 | 自治体 | 大学関係者

へき地教育推進フォーラムの成果と還元

令和の日本型学校教育に向けたへき地教育の研究成果を波及するため、文部科学省の政策提言に関する講演会を開催すると共に、令和の日本型学校教育の具現化に関するへき地教育推進フォーラムを開催している。平成17年度の開始から令和6年度までに25回開催を続けている。

【取組の目的】

「令和の日本型学校教育」を担う質の高い教師の育成、及び教員研修の充実と資質・能力向上を図るため、独自の指導方法や少人数学級経営の工夫について、連続フォーラムを開催した。これにより、教育政策とも連動したへき地教育の成果と重要性を広く発信している。

【特色・ポイント】

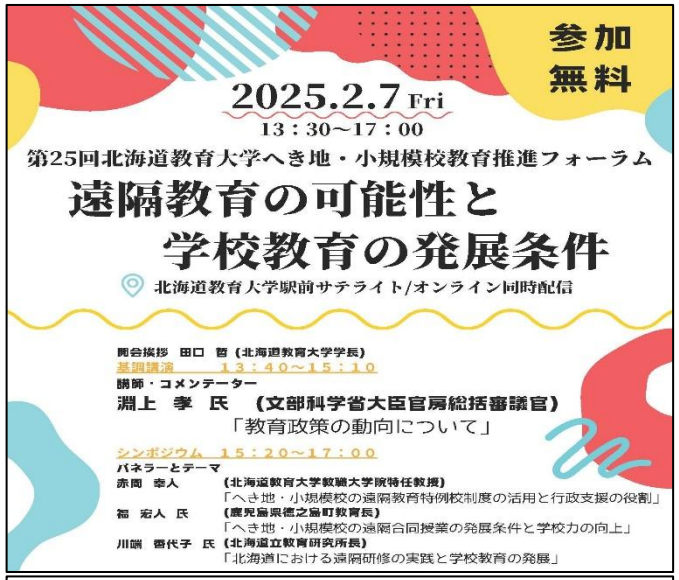
○文部科学省、北海道教育委員会、へき地教育研究連盟などと連携し、全国の学校関係者に向けたへき地教育推進フォーラムを開催している。
○へき地教育推進フォーラムは、全国へき地教育研究連盟とも連携して、全国約3,000校に配信している。

【令和６年度の取組内容・実績】

○文科省の初等中等教育局長による学校の小規模化における展望について講演を実施。（R6.7.5、281人参加）
○第24回フォーラム「島の体育のものがたり」（R6.12.21、104人参加）
○第25回フォーラム「遠隔教育の可能性と学校教育の発展条件」では文科省総括審議官による遠隔教育に関する講演会を開催。（R7.2.7、268人参加）

【今後の展望】

教育政策の動向を踏まえ、へき地・小規模校の在り方を再構築し、資質・能力向上の新たな方策を模索する。今後もへき地教育推進フォーラムを継続して開催し、研究発表を通じて研究者・教員の連携を深め、教育現場に即した実践的な支援体制の構築を目指していく。



フォーラムでは、教育政策の動向について文科省総括審議官から講演をいただくとともに、へき地でのICT活用の事例報告をとおして、今後の遠隔教育の可能性について討論を行った。

講演会では、「個別最適な学びと協働的な学び」等の小規模校化の中での新しい学校教育のあり方を展望した。

関連のある第４期中期計画番号：
ビジョンの取組番号： 教育１－２ ， 研究４－１ ， 地域・社会貢献３－１ ， ３－２
取組のURL： https://www.hokkyodai.ac.jp/edu_center_remoteplace/forum/

【責任者・担当部署】
玉井副学長
連携推進課

目次へ

へき地教育の理論を総結集した監修書籍を刊行

高校生 | 本学学生 | 地域の方々 | 学校教員 | 民間企業 | 自治体 | 大学関係者

へき地・小規模校教育研究センター監修『未来の教育を創造するへき地・小規模校の教育力』刊行

未来の教育をへき地・小規模校教育の教育力から、理論的・体系的にとらえることを目的として監修書を刊行した。本書は、５つの柱で未来の教育を創造するへき地・小規模校の教育力をとらえている。

【取組の目的】

へき地・小規模校教育研究センターは、全国唯一のへき地・小規模校を研究する組織である。ほとんどが過疎地に指定されている北海道において、道東・道北・道南・道央にキャンパスを有する本学が、各地域に根ざしたへき地教育・研究を理論的にも牽引し、書籍として全国的に普及する。

【特色・ポイント】

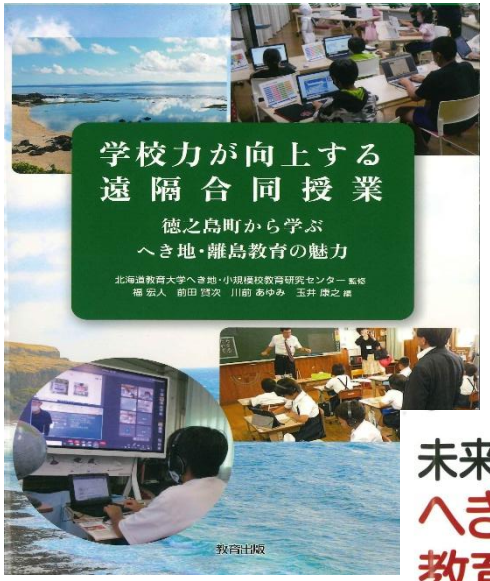
執筆者は全て本学教員であり、北海道を舞台に全国の様々な研究者と連携した研究成果である。本書ではICT・遠隔システムや地域性を活かしたへき地教育の教材開発とネットワークも構成しており、へき地教育における新たな理論と実践を紹介し、教育システムの発展を導いた。

【令和６年度の取組内容・実績】

へき地・小規模校教育研究センターが監修して『未来の教育を創造する　へき地・小規模校の教育力』（学事出版）を刊行し、道内の市町村教育委員会の関係部局に配付した。また、本学学生のへき地教育の理論的知見を高めるために、教員養成を行う札幌校・旭川校・釧路校3キャンパスで開講している「へき地教育論」の教科書に活用した。

【今後の展望】

理論的内容は、実践力を高めるためにも不可欠であり、今後は、へき地教育の実践と理論の往還型「へき地教育プログラム」の基本書籍として本書を普及していく。また、本書により学生の理論的知見を伸長し、学生教育の発展に資する。



へき地・小規模校教育研究センターが監修する1冊目『学校力が向上する遠隔合同授業』（教育出版、令和5年）

本書は、へき地・小規模校教育研究センターが監修する2冊目『未来の教育を創造するへき地・小規模校の教育力』（学事出版、令和6年）

監修書の1冊目・2冊目のいずれの書籍も令和6年度中に増刷となった。

関連のある第４期中期計画番号：

ビジョンの取組番号：教育１－２，研究１－２，地域・社会貢献３－１，３－２

取組のURL： https://www.hokkyodai.ac.jp/edu_center_remoteplace/public/book.html

【責任者・担当部署】
玉井副学長
連携推進課

目次へ

国際地域研究の学術的意義を発信

国際地域研究シンポジウム

地域と世界のつながりをどう理解し、未来をどう描くか。本シンポジウムは、グローバリゼーションにおける国際社会と地域との関係を軸に、多角的に議論・発信する場として2018年度から毎年開催している取組である。

【取組の目的】

現在、世界と地域の境界はあいまいになり、私たちは互いに深くつながり合う時代に生きている。持続可能な社会の実現には、世界で起きている事象は他人事ではなく、地域で生きる自分自身の問題だと捉え、地域に根ざしながら世界的な視野で課題に向き合う姿勢が求められる。本取組の目的は、そうした視点を重視し、地域と世界をつなぐ教育研究を深めていくことである。

【特色・ポイント】

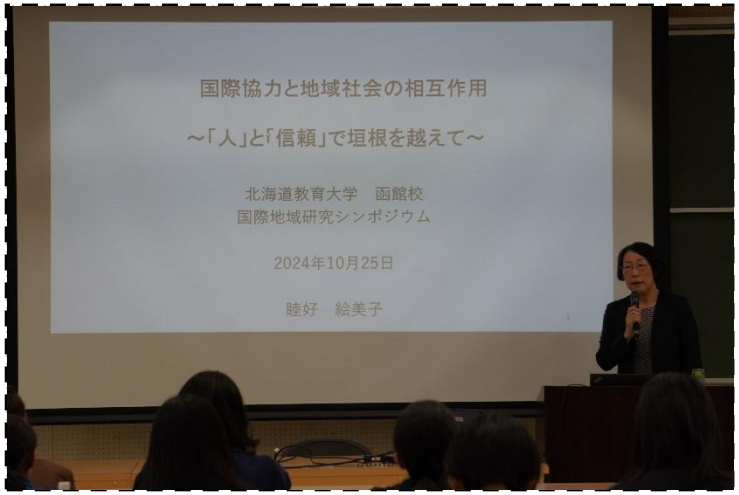
本取組は、「国際地域」を冠する学科として、国際地域研究とは何かを問い、その学問的輪郭を描き出す。受験生に対しては、函館校の教育・研究の魅力を伝える機会となり、国内外の研究者に対しては、新たな学問領域としての国際地域研究を発信する場として機能している。なお、本取組は翌年発行の『国際地域研究』に収録し、函館校教員の論考と合わせて発信している。

【令和６年度の取組内容・実績】

令和6年10月25日（金）に開催された第７回シンポジウムでは、ササカワ・アフリカ財団事務局長の睦好絵美子氏が基調講演を行った。講演では、JICA職員の経験に基づき、国際協力の現状、複合的危機などの課題、そして未来への展望が語られた。パネルディスカッションでは、村田敦郎教授と津曲真樹講師が登壇し、国内外で活躍する人材育成について議論された。

【今後の展望】

今後も本取組を通じて、地域に根ざしつつ世界を見据える”Think Globally, Act Locally” “Think Locally, Act Globally”の理念を函館から力強く発信していく。国際地域研究の学問的深化と実践的展開を両立させ、多様な視点が交差する知的交流の場を築くことで、函館校がこの理念を担い、国際地域研究を牽引する場となることを目指す。



基調講演（睦好絵美子氏）

パネルディスカッション

関連のある第４期中期計画番号：１－２
ビジョンの取組番号：研究４－２
取組のURL： https://www.hokkyodai.ac.jp/info_area/hak/detail/289.html

【責任者・担当部署】
函館校キャンパス長
函館校室

Agency（自ら考え、判断し、行動を起こす力）の育成

高校生 | 本学学生 | 地域の方々 | 学校教員 | 民間企業 | 自治体 | 大学関係者

岩見沢校
芸術・スポーツ文化学科

芸術・スポーツの実践によるAgencyの育成

岩見沢校の特色である芸術・スポーツ活動の実践・経験を学生はもとより、自治体を含む地域や他機関と連携して社会へ展開していくことで、個人の創造性や自己表現を促進し、主体性の発展に寄与していく。

【取組の目的】

Volatility（変動性）、Uncertainly（不確実性）、Complexity（複雑性）、Ambiguity（曖昧性）が高まる環境に直面した現代社会（VUCA）において、芸術・スポーツ活動を通して、独創性を涵養する。岩見沢市をはじめとした地域との連携、他大学・NPO等他機関との連携、外部資金の活用により、学校だけではなく社会におけるAgency育成に寄与する。

【特色・ポイント】

- 岩見沢市・道内各地域での芸術・スポーツ文化の醸成
- 岩見沢市の地域特性を活用したコンテンツの開発
- 大学発ベンチャーによる学科研究成果の機動的展開
- well-being実現・社会実装を目指したサードプレイスの構築

【令和６年度の取組内容・実績】

- あそびプロジェクト、芸術・スポーツキャラバンや各種公演等の実施
- 岩見沢市芸術祭等実施に向けた調査・研究、雪と氷のプログラム開発
- 合同会社バルプラッツ、NPO法人北海道教育大芸術・スポーツ文化研究所の活動展開
- 空きテナント活用によるサードプレイスの構築・展開

【今後の展望】

芸術・スポーツ文化学科の目的である「芸術やスポーツの文化価値を地域のさまざまな課題解決へ活用し、それを新たな文化ビジネスへつなげる発想を持つ地域人材の育成」を遂行していくとともに、学科の人材・資源を有効活用し、芸術・スポーツ活動を通した地域への還元を目指す。

- 「あそびプロジェクト」や「芸術・スポーツキャラバン」をはじめとした各種大学開放事業や演奏会・展覧会等により、地域（岩見沢市並びに北海道各地）の芸術・スポーツ活動へのアクセスを確保する。
- 外部資金を活用し、「岩見沢市」の地域特性を活かしたコンテンツを開発。地域における芸術・スポーツ活動の推進及び地域観光資源を開発する。
- 合同会社、NPO法人といった大学発ベンチャーを立ち上げることにより、学科の研究成果を活用し、スポーツ活動の場を提供するほか、指導者養成等も行うことで、地域における芸術・スポーツ活動の質の向上を目指す。
- 外部資金を活用し、世代を超えた学び合いの芸術・スポーツコミュニティの場として、地域の空き店舗を活用したサードプレイスを構築する。

関連のある第４期中期計画番号： １－２
ビジョンの取組番号：研究４－２，地域・社会貢献２－１，２－２
取組のURL： https://www.hokkyodai.ac.jp/iwa//

【責任者・担当部署】
岩見沢校キャンパス長
岩見沢校室

目次へ

市民が気軽に文化活動に関わるまちを目指す

高校生 | 本学学生 | 地域の方々 | 学校教員 | 民間企業 | 自治体 | 大学関係者 | 岩見沢校 芸術・スポーツ文化学科

岩見沢市芸術祭等構想に係る調査研究業務

令和5年度開催の「いわみざわ芸術文化・スポーツの祭典」を契機に、今後さらなる岩見沢市民の文化振興を目指し芸術・スポーツ推進の活性化に向けた企画を立ち上げるため、方向性を定めるべく岩見沢市より業務委託を受け、市内外にて調査業務を行っている。

【取組の目的】

- 市民の文化活動に対する意識とニーズを計る
- 他市町村の事例について情報収集
- 岩見沢市での芸術祭（仮）開催にあたって方向性を見出す

【特色・ポイント】

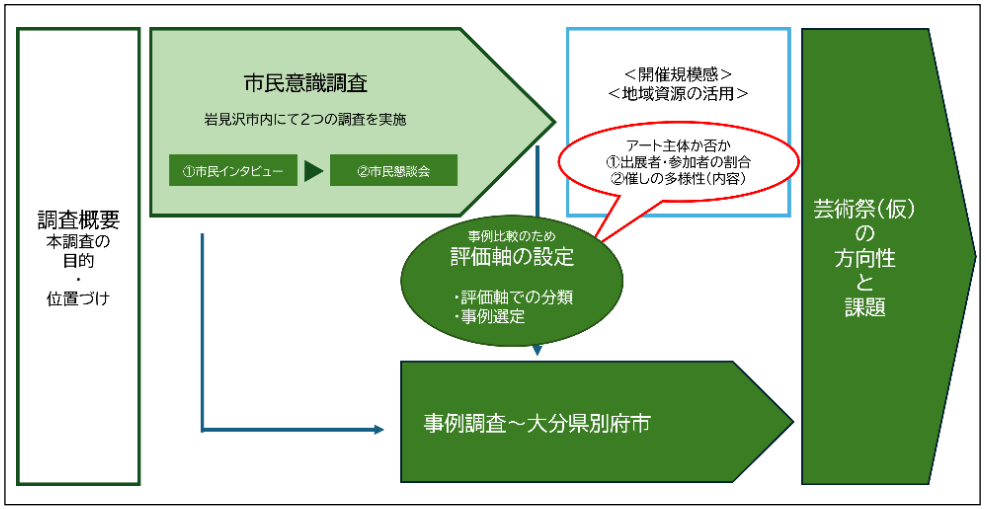
- 岩見沢市から業務委託を受け、岩見沢校室に事業担当職員を１名配置
- 令和5年度開催で課題として挙がった「来場者の大多数が関係者」という点から、より幅広い市民が積極的に関われるイベントを目指し、担当者が市民のもとへ訪問し、計37名にヒアリング調査を実施
- 岩見沢市で開催したいイベントを考える市民懇談会を開催

【令和６年度の取組内容・実績】

- 市民意識調査：岩見沢市内にて市民インタビュー・市民懇談会の実施
- 事例調査：大分県別府市開催「ベップ・アート・マンス」実地調査
  代表の山出淳也氏・運営団体であるNPO法人Beppu Project担当者へのインタビュー調査
- 調査報告書の作成

【今後の展望】

最終報告書の内容を受け、令和9年度の開催に向けた企画を検討。また、実施事務局・実行委員会の設置、予算案の作成、市民や大学との連携について、岩見沢市と協議しつつ推進していく。



本調査手順

市民懇談会の様子

市民の方々を大学に招き『岩見沢だからこそできる、文化芸術・スポーツを活かした新たなイベント「いわみざわ芸術祭」を企画する』をテーマに話し合う懇談会を開催した。

市内の高校生、校長、絵画ホール館長、本校教員、市役所職員など、幅広い年代や職業の方が参加。

関連のある第４期中期計画番号： １－２

ビジョンの取組番号：研究４－２

取組のURL：

【責任者・担当部署】
岩見沢校キャンパス長
岩見沢校室

雪と氷の教育プログラムの開発

高校生 | 本学学生 | 地域の方々 | 学校教員 | 民間企業 | 自治体 | 大学関係者

岩見沢校
芸術・スポーツ文化学科

（R6）
戦略的イノベーション創造プログラム

×

（R6）
スポーツ庁 ／ スポーツツーリズムコンテンツ創出事業

雪や氷という地域資源を小・中・高校・大学の教育から、地域における生涯教育まで、どのように活用できるか
「雪・氷」の価値を再定義し、地域観光資源として活用する学びあいの教育コンテンツ

【取組の目的】

- 積雪地域ならではの特色ある学びを探求し、教育・研究・地域活性化の可能性を考えていく。
- 観光誘客や地域活性化に資するため、スノースポーツを活用した教育的プログラムを通じて観光コンテンツを創出する。

【特色・ポイント】

- 大人も子どもも楽しめるプログラム
- 雪の少ない地域からの訪問者やウインタースポーツ初心者でも気軽に楽しめるスノーアウトドアスポーツアクティビティ
- 外部資金「SIP（内閣府：戦略的イノベーション創造プログラム）」「スポーツ庁：スポーツツーリズムコンテンツ創出事業」を活用

【令和６年度の取組内容・実績】

- そりフェス　vol1.0：「自分らしく生き、自分の意志で決定できる社会をつくる学びの北海道モデルの構築と展開」の一環としてのイベントを実施
- モニターツアー開催(日帰りor3泊4日)：冬の観光資源を活用したスポーツツーリズムを推進するとともに、地域の自然、文化、食、歴史を活かしたツアーを企画・実施

【今後の展望】

- プログラムの更なる精査と開発
  雪と氷、雪国の暮らしや文化などを学ぶ・体験する・知る・再発見する
- 地元企業との連携強化、『森林サービス産業』へのアプローチ

こんな方に

- 冬の思い出を作りたい
- 子供と一緒に楽しみたい
- 地域のイベントに参加したい
- スポーツが好きな方

こんな内容

- 大学構内での
  アクティビティとレクチャー
- テレワークセンター前での、
  イグルーづくり
- 宝水ワイナリーでのアクティビティ

関連のある第４期中期計画番号：
ビジョンの取組番号：研究４－２
取組のURL：

【責任者・担当部署】
岩見沢校キャンパス長
岩見沢校室

目次へ